

持病いひょうへおこりて、消入きえいる計ばかりになん。短夜みじかよの空

しやうく明あくれば、又旅たび立たぬ。猶夜なほよの名残なごり、心

すゝまず。馬うまかりて、桑折こをりの駅えきに出る。

一般

段級

〔奥の細道〕
持病まで起こつて、身も持病まで起こつて、身も心も消え入りそうになった。短い夏の夜もようやく明けてきたので、また旅立つことにする。まだ昨夜のいやな感じが残つて、旅に気持ち向かなかつた。馬を借りて桑折の宿場に着いた。

